

【研究ノート】

# 子ども理解を深めるための観察と記録の方法

—特定児を対象とした観察日の設定とその記録—

豊辻晴香<sup>(1)</sup> 松尾麻紀<sup>(2)</sup> 金丸智美<sup>(1)</sup> 馬場悦子<sup>(1)</sup> 徳安敦<sup>(3)</sup>

## Observation and Recording Methods for Better Understanding of Children

: a pilot study on observations and records with a specific child

by

Haruka TOYOTSUJI<sup>(1)</sup>, Maki MATSUO<sup>(2)</sup>, Satomi KANAMARU<sup>(1)</sup>,  
Etsuko BABA<sup>(1)</sup>, Atsushi TOKUYASU<sup>(3)</sup>

### 【要 旨】

学生の実習体験をもとに保育における課題の掘り起こしや共通的事例に対する分析、考察を行う場合、その素材として重要な役割を果たすものに実習日誌がある。そのためにも時間とともに風化しない記録の内容や質が問われるところであるが、実習に関する図書に記載されている記録例のなかには、観察記録か事前計画か判然としない記述内容のものや、観察記録であっても一人ひとりの子どもに視点を置くことなく全体的な記録にとどまってしまうものが多く見受けられる。養成校および実習園で使用する実習日誌が古くからの様式に固定されていることもその一因と考えられる。そこで個性ある子ども一人ひとりの理解をより深く得るための一つの試みとして、実習期間中に特定児観察日を設定して記録する機会を設けた。結果、実施園及び実習生からは一定の評価を得ることができた。また、実習事前指導の在り方、実習園への依頼手段や方法、効率のよい記述方法の設定、そして事後指導における効果的な個人記録の使用など課題も明らかとなった。

---

受理日 平成22年11月24日

- (1) 純真短期大学こども学科 助教
- (2) 純真短期大学こども学科 講師
- (3) 純真短期大学こども学科 教授

## 1. はじめに

幼稚園教育要領解説では、子どもの発達を理解しそれに応じた体験を得られるような環境を構成することが求められている<sup>1)</sup>。つまり、子どもに対する理解の能力を高めることは、保育者を志す者にとって重要な課題の一つと言える<sup>2)</sup>。その子ども理解を深めるために実習の事後指導において実習日誌を題材とした振り返りを行う場合、そこに書かれている記述内容が大きく影響を与える。特に振り返りの視点と事例とを結びつけて考察する場合には、小さな具体的事例が必要となってくる。ここでは新鮮な記憶の源泉となるためにも、実習後の時間経過とともに風化し一般化しない記録が求められる。つまり毎日繰り返される一般的な事項の記述だけではなく、個々の子どもと保育者を意識した記述が求められるところである。そのためには、事前指導における観察の意義と記録の取り方に関する学習内容の充実とともに、各実習段階における実習のあり方等を検討し、改善していかなければならない。

実習生が実習園で指導を受けた実習日誌の中で、子どもの活動や保育者の配慮・援助に関する項目の記述が、毎日繰り返される保育の流れや留意事項を時程に沿って示しているデイリープログラムのような記述に終始しているものがある。そこでは具体的な個々の子どもを対象とした記録が乏しく、毎日同じような文章が繰り返されており、この記述形式では「一人ひとりの子どもを捉える視点が育ち難い」という状況が生じている<sup>3)</sup>。

そこで本稿では、このような状況が生まれてくる要因について考察するとともに、個々の子どもを見つめた実習記録により近づけるための取り組みのひとつとして、実習期間中に特定児を対象とした観察日の設定とその効果を検討することを、目的とする。

## 2. 実習日誌における具体的活動記録をめぐる現状

### (1) 実習に関する図書(テキスト)に記載されている記録の例

実習のオリエンテーションや事前指導では必ずしもテキストが使用されているわけではないが、市販のテキストで例示されている実習記録において、個々の子どもを対象とした記録がどのように扱われているかについて、1986年から2007年の20年余りの間に発行された12冊を対象に調べた。対象図書に示された実習日誌記入例のうち、特に子どもの活動欄と保育者の援助・配慮欄の記述において、個々の子どもにスポットをあてた具体的な内容が取り扱われているか否かについて、次のような二つの視点から評価項目を設定し検討を行った。(3人の評価者のうち2人以上の評価をもって決定した。)

評価項目1：記述内容が日案のようである。

- ① ほとんどの記述が日案のようになっている。
- ② 活動の記録と日案のような記述が混在している。
- ③ ほとんどの記述が活動の記録になっている。

評価項目2：一人ひとりに視点を置いた記録である。

- ① ほとんどが全体的あるいは共通的な視点からの記録になっている。
- ② 一人ひとりに視点を置いた記録が含まれている。
- ③ ほとんどが一人ひとりに視点を置いた記録になっている。

評価事項1の結果は表1のとおりである。子どもの活動欄や保育者の援助・配慮欄の記述内容が活動の記録というよりも「ほとんどの記述が日案のようにになっている」が7冊で、それらは指導案と区別がつきにくいものであった。「活動の記録と日案のような記述が混在している」が2冊で、「ほとんどの記述が活動の記録になっている」は3冊であった。

【表1】 記述内容

①	ほとんどの記述が日案のようにになっている。	7冊	58.3%
②	活動の記録と日案のような記述が混在している。	2冊	16.7%
③	ほとんどの記述が活動の記録になっている。	3冊	25.0%

評価事項2の結果は表2のとおりである。子どもの活動欄や保育者の援助・配慮欄が「ほとんどが全体的あるいは共通的な視点からの記録である」は8冊で、一人ひとりの子どもに視点をあてた記録ではなかった。また、「一人ひとりに視点が置かれた記録が含まれている」が2冊で、「ほとんどが一人ひとりに視点を置いた記録である」は2冊であった。

【表2】 観察視点

①	ほとんどが全体的/共通的な視点からの記録である	8冊	66.6%
②	一人ひとりに視点を置いた記録が含まれている。	2冊	16.7%
③	ほとんどが一人ひとりに視点を置いた記録である。	2冊	16.7%

また、子どもの活動欄や保育者の援助・配慮欄の「ほとんどの記述内容が活動の記録である」で、且つ「ほとんどが子ども一人ひとりに視点を置いた記録である」は2冊であった。このことから、実習指導用テキストにおける実習日誌記入例においては、子どもの活動欄や保育者の援助・配慮欄の記述は、多くの場合は日案と区別がつきにくい内容で、しかも一人ひとりに視点を置いた記録ではなく全体的・共通的な視点のものが多いたことが分かった。テキスト執筆者が保育者養成校の教員が中心であることから、保育者を養成する機関の実習日誌記入の指導においては、日案と区別がつきにくく全体的な記述による指導がなされていることが推察される。但し、実習記録を考える場合に、子どもの活動欄や保育者の援助・配慮欄は全体の流れや基本的事項を記録するところであり、個々の子どもに関するものは感想欄や気づきの欄を使って記録するという考え方もある。実際にこのような考え方から、個々の子どもにスポットをあてて工夫されているものもあった。

(2) 実習園における実習指導保育者の認識

J短期大学では、実習事前指導において、子どもの活動欄や保育者の援助・配慮欄には、できる限り具体的な個々の事例に基づいた記述を心がけることを求めている。しかし実習の途中で全般的記述に変化しているケースがある。この多くが園の実習指導保育者によって変更を指示されている。

学生に対しては、園の実習指導保育者の指示に従って対応するよう話しているため、混乱は起こっていない。このように、園の実習指導担当者から全般的で日案的記述が求められる背景としては、実習指導保育者も学生時代には養成校及び実習園において同様の指導

を受けてきたことによると考えられる。つまり実習生として指導を受けて学習してきた者が卒業後、園に就職すると今度は実習生を指導する者へと立場が変わり、同様の学習内容に基づいて教育指導を行うために、この連鎖が繰り返されている。このことは先に挙げた20年余りの実習テキストの日誌に関する例示の多くがこの点における変化がないことから推察されるところである。

### (3) 実習園における園長（主任）と実習指導保育者との認識のずれ

実習にあたり、実習日誌が具体的な観察記録となるよう園長や主任にお願いし賛同をしていただいた場合であっても、先述したように観察記録が園の実習指導保育者によって日案的記述に書き換えられることがある。このことから直接実習生を担当していただく実習指導保育者へ、日案的ではない具体的な記録による実習日誌の記入に関するお願いが十分に伝わっていないことも考えられる。また実習期間中の訪問指導における面談の際などに、実習指導保育者に実習日誌の記入に関する説明をして初めて理解をいただくこともある。

現在、実習に関する説明とお願いは、『実習要項』として園に配付しているが、各園一部のみということもあり、指導担当保育者まで充分に行き渡っていないことも推察される。『実習要項』では、特に最初の実習において、「観察」と「参加」を中心にした実習をお願いしている。その際には、できる限り具体的な事実の記録と一人ひとりに視点を置いた記録になるよう指導をお願いしているが、その項目はそれぞれ文章のみによる表現となっている。従って、参考資料としての具体的な記入例を示していないため、インパクトが弱く見過ごされていることも考えられる。さらにこの視覚的なサンプルを示していないことが、一人ひとりの受け止め方の違いを生み、直接的な共通のイメージを持ちにくくしていると推察される。

## 3. 特定児の観察による記録の試み

### (1) 実習中における特定児観察日の設定

J短期大学では実習園のご協力のもと、可能な場合のみ実習中に数日、特定児の観察日を設定いただくことにしている。期待される効果は実習記録の記述内容の具体化である。例えば、従来の日誌では登園時刻は予定された時刻を記録に書き「順次登園」などと全体的な表現をとることもあったが、特定児であれば、登園した時刻を具体的に書いていくことができる。同様に「挨拶」、「視診」、「保護者への対応」をした保育者も、コアとなる保育者であったのかそれ以外の保育者であったのか、記録することでその区別が判りやすくなる。

もちろんその子どもの登園時の姿、保護者や保育者とのかかわり等、必要であれば具体的に観察し記録していくことができる。また保育者の援助や配慮も具体的な事例として記録し残すことができる。

このような観察と記録により、指導案的なものとは違う記録を実習生と実習指導保育者が共有し、視覚的に個々の子どもの具体的な記録を確認することができ、それを通して、実習生と実習指導保育者が共通の認識を持つことが期待される。更にはこの具体的事例の

記録を基に、実習事後指導において実習の省察や今後の課題の発見などに役立てることも考えられる。

## (2) 実習園の反応

上述のとおり特定児を対象とした観察日を設定していただく依頼は学校から実習園に渡す『実習要項』で提示しているが、近隣の実習園に対しては事前訪問を実施しその目的等を説明した上で、観察日設定に対する協力の有無を伺った。

訪問時期は園の都合や実習受け入れ準備期間等を考慮し、実習が始まる1週間前後に行った。事前に「実習に関するお願い」としてアポイントを取り実習関係教員が実習園を訪問し、園長、主任、もしくは実習指導保育者と面会した。説明時には「子どもに対する理解を深めるために、特定の乳幼児を対象とした観察日を実習中に1~2日間程度設定し、その個人記録を取る機会を設けていただきたい」という要望を伝えた。

その依頼に対し同意いただいた園は、8ヶ園中7ヶ園であった。具体的には、「特定児を観察することは子ども理解のために勉強になるかもしれない」「(特定児を観察することが)日常の園生活に支障を来さなければ構わない」といった意見があった。しかしたとえ賛同いただいても、「多くの子どもたちが実習生と関わろうと近寄ってくる中、特定児を観察するのは物理的に難しいのでは」といった意見もあった。また、「実習生には一日の流れや保育者の務めなど、園がどういうものかをまず一番に理解してもらいたい」と、基本を押さえた上での特定児観察の実施を求められた。

依頼に対し難色を示したのは1ヶ園で、理由としては上述の基本的事項の習得のほか「特定児ばかり観察していると、他の子どもからすれば(あたかも実習生が)ひいきしているように感じるのではないか」という意見であった。

このように特定児を対象とした観察日の実施について依頼したところ、時間と機会があれば学校側の要望に応じて実施してもよい、という姿勢が多く見受けられた。

## (3) 観察記録の実際

以上の取り組みを踏まえて実習を行った学生の観察記録は、大きく3つのタイプに分類することができた。①日案に近い記録、②特定児の観察記録、③エピソードに近い特定児の観察記録である。各記録の特徴を、実際の観察記録を例に挙げて説明する。

なお、表3から表6には、学生の記録を原文のまま掲載する。また、記録は基本的に現在形を用いるとされるが、指導案とは違う記録としての意識を持って取り組むために、過去形の使用も認めている。

### ① 日案に近い記録

表3は、学生Aによる特定児を対象としていない記録の事例である。実習テキストの日記誌に関する事例と同様、日案に近い記録になっていることが分かる。

### ② 特定児の観察記録

実習園で「特定児の観察日」を設定していただき観察を行った記録内容は、日案に近い記録に比べ、具体的な記述内容になっている。

【表 3】 学生Aによる、日案に近い記録

時間	園児の活動	援助及び配慮	環境の構成
8:00	○順次登園 ・上靴を履く ・帽子を脱ぐ ・お帳面にシールを貼って出す ・体操服に着替える ・自由遊び、外遊び [ ・鬼ごっこ ・サッカー ・氷鬼 ・ハンターゲーム	・一人ひとりの子どもたちに挨拶しながら出迎える ・帽子を脱がずに遊んでいる子に帽子を脱ぐように促す ・体操服に着替えるよう促す ・「お外で遊んできていいよ」と声をかける	
9:30	○片付けをする ・放送を聞いて片付けをする	・「お片付けをしましょう」と大きな声で呼びかける	
9:50	・教室に戻り水分補給をする ・椅子を持って自分の好きな席に座り、みんなが揃うまで待つ	・お帳面を書きながら子どもたちの様子を見る	

【表 4】 学生Bによる、特定児の観察前の記録

時間	園児の活動	援助及び配慮	環境の構成
8:30	順次登園、視診 ・ロッカーにカバンを掛ける ・クラス帽をなおす ・シール帳、お便り帳を出してシール帳にシールを貼る ・水筒を棚に置く	・部屋に入ってくる子に挨拶をして、元気のない子や返事をしてくれない子、声の小さい子には心をこめ、しっかりとあいさつできるよう配慮する。	
8:40	自由遊び ・ブロック遊び	・廊下を走っている子になぜ廊下を走ったらいけないのか、廊下を走るとどうなるのかを聞いて、走らないよう伝える。	
9:30	片付け	・一人ひとりが片付けするよう、2箱の玩具が出ていたので「あっちとこっちは、どちらが早く片付けられるかな？皆で片付けると早く片付けられるかもしれないね」と声を掛ける。 ・片付けが終わって、一度その場に座るよう伝える。	

表4、表5の事例は、学生Bが同じ時期に実習した時の記録である。表4は、特定児を対象としていない日案に近い記録である。表5は特定児を対象とした記録である。

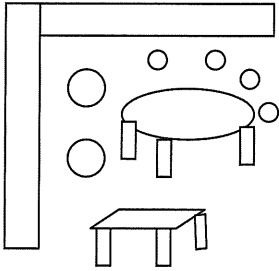
特定児を観察した表5の記録のほうが、より子どもの様子やその場の状況が見える記録になっている。特定児の観察により、記録に変化が見られたと言える。

なお、表4では「園児の活動」「援助及び配慮」「環境の構成」という3項目に分類して記録を取っているが、表5では「子どもの活動」「援助及び配慮」「気づき・感想」となっている。これは、園の実習指導保育者からの指導によるものである。

【表5】 学生Bによる、特定児の観察後の記録

時間	子どもの活動 (M君を中心に)	援助及び配慮	気づき・感想
9:00	M君登園、視診  荷物整理  入室 ・シール帳にシールを貼る ・水筒を棚に置く  通園バッグをケースに入れる	・挨拶をする。  ・荷物整理を見守る。	・挨拶をしても声が小さく聞こえなかったので、もう一度元気に挨拶するよう声を掛ける。  ・荷物整理をする時、ロッカーの前で座ったままなので、「大丈夫？具合悪いの？」と声を掛ける。  ・水筒を置く棚がいっぱいになって置けないので、他の子の水筒を詰めて置くよう声を掛ける。  ・通園バッグをどうしたらいいのか分からないようなので、「ケースに入れておこうね」と声を掛ける。
9:10	自由遊び ・皆が登園して来るまでブロックで遊ぶ	・朝の支度が出来次第、部屋で遊ぶよう声掛けをする。 ・道具を大切に扱ったり、友達と仲良く遊ぶよう声を掛ける。	・お友達をずっと見ていたが、声を掛けられてブロックで遊び出す。
9:30	片付け	・片付けの合図が鳴ったので遊ぶのを止めて、片付けするよう声掛けする。 ・早く片付けが出来よう声掛けをする。	・率先して片付けをしてくれるので、「ありがとう」と声を掛けると、とても嬉しそうに片付けをしていた。

【表 6】 学生Cによる、エピソードに近い特定児の観察記録

時間	子どもの活動	援助および配慮	環境の構成
8:00	<p>順次登園</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち物を片づける</li> <li>・シールを貼る</li> </ul> <p>自由遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂場</li> <li>・ジュース作り</li> </ul> <p>作る部屋</p> <p>Hちゃん、Nちゃんが一緒に段ボールを切る</p> <p>H:「よっしゃーいいこと考えた」</p> <p>N:「いいねそれ」</p> <p>穴をあける</p> <p>H:「穴があいた」</p> <p>そこから目を通して見る</p> <p>H:「I君の顔が見えた」</p> <p>N:「Hちゃんの顔が見えた」</p> <p>A君が作った武器をHちゃんに向ける。Hちゃんは「うわお」と言って驚く</p> <p>H:「もっちゃんよ」</p> <p>HちゃんはまたNちゃんと穴をあける</p> <p>Nちゃんは音楽に反応し歌い始める</p> <p>他のクラスのMちゃんが「KちゃんがS君にいじわるしよる」と伝えに来ると、HちゃんもNちゃんも反応する。</p> <p>N:「行ってみよう」</p> <p>Nちゃんが戻ってきて</p> <p>N:「良かったよ」</p> <p>またHちゃんと一緒に穴をあける。</p> <p>HちゃんとNちゃんは音楽に合わせて穴をあけ、音楽が止まるとあけるのを止める。</p> <p>H:「ありの巣。お家のありにあげる。」</p> <p>Hちゃんはその段ボールを持って帰るようロッカーに入れる。</p> <p>教室でHちゃんが「キヤー」と言う。</p> <p>Hちゃんの種が落ちる。K君とNちゃんは少しじっと見てから一緒に拾う。</p> <p>H:「ありがとう」</p>	<p>挨拶をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や話をして子どもの体調を見る</li> <li>・落葉を掃除する</li> <li>・子どもが水を使いすぎないように桶に水を溜めておく</li> <li>・机、椅子を置く</li> </ul>	<p>段ボール</p> <p>穴をあける道具</p> 



### ③ エピソードに近い特定児の観察記録

表6は、学生Cによる特定児を対象にした記録である。同じく特定児の観察記録ではあるが、表5の例に比べ、よりエピソードに近い記録になっている。会話や子どもの動きが見える具体的な記録は、実習生と実習指導保育者が共通の認識を持つことにも役立つため、実習の振り返りや省察等に活用しやすいと考えられる。

記録の様式については、表6の記録のように「叙述体」を用いる方法が良いのか、より端的に事実とその事実に対する解釈や説明を加えた「要約体」を用いる方法が良いのか、今後の検討課題として挙げられる。

### ④ 実習指導保育者の所見より

表6の記録に対し、実習園の実習指導保育者は次のような所見を述べている。

「じっくりと子どもの遊びの姿を見ることで、先生の発見があったようですね。子どもたちの発想のすばらしさに気付きましたね。(中略) アイディアを受け入れたり、穴が開いた向こうに友達の顔が見えたりして、十分に遊びこんでいる姿が想像出来ました。(中略) 子どもたちがどこでどのように関わっているのかよく見えた日誌でしたよ。」

この所見より、実習生が観察した保育の一場面を実習指導保育者も共有できたこと、記録を肯定的に評価していることが推察される。

また、上記の保育者以外にも、特定児を対象にした観察を実施した園の実習指導保育者は個人記録を取ることに、「集団で見ていると気づかない子どもの成長や良い点を発見することができる」「目的を持ち観察できる」等、肯定的な所見を述べている。

### ⑤ 学生の所感・反省より

特定児の観察を行った学生の所感を見ると、全ての学生が「全体を見ながら個人の観察をするのは大変」「一人の子どもをずっと観察するのは難しい」「誰のどこを見ていいのかわからず戸惑った」等、個人観察を行うことの難しさを述べていた。記録を取ることに慣れていない学生にとって、個人観察記録は想像以上に困難だったようである。

しかし、特定児の観察を行う取り組みに対しては肯定的な意見が多かった。「全体の中の一人として見ている時と違い、細かいしぐさや特徴などを発見することができ、とても面白く勉強になった」「(子どもが)元気がよく、活発なことが改めて分かった」「今までと違うものの見方を発見できた」「個人観察をしていると、その子と何度も目が合うようになり、話すきっかけを貰えて、とても良い経験になった」「子どもたち一人ひとりに違う良さがあると思うので、個人観察を通してもっとたくさんの子どもの事を知っていきたい」等、学生は個人観察への取り組みが、新たな気づきにつながったと感じているようである。

## 4. まとめ及び今後の課題

以上、実習日誌がデイリープログラムのような記述に終始し具体的な個々の子どもを対象とした記録が乏しい現状を受け、本稿ではその要因を探るとともに、子ども理解をより深めるべく実習期間中に特定児を対象とした観察日の設定とそれを記録する効果について検証した。

結果、市販の実習指導用テキストに記載されている実習日誌記入例の多くが日案と区別がつきにくく、記録視点も個々の子どもたちではなく全体的なものであることが分かった。

そしてその教育内容に基づいた実習園の実習指導保育者たちが、実習日誌を日案や指導案の形式で書く認識を持って指導に当たっていることも、このような現状が生まれる一因ではないかと推察された。

また、特定児観察による記録の試みでは、事後指導で出来る限り具体的な事例を通して事前に示した観察視点からの振り返りと課題の抽出及び考察を行えるよう、これに結びつくような個々の子どもにスポットをあてた具体的な記録を実習日誌に記入するために、①実習中に、特定児を観察する日を1日～2日設けることの提案、②その趣旨を周知するための資料を作成し、各担当の保育者にまでいきわたる工夫をする、さらに③記述にあたっては、現在形の表記にこだわらず、あえて過去形による表記も容認する、ということについて考察してきた。その結果、実習生が観察や記録の方法に戸惑いを感じるものの子どもの理解につながる多面的な視点を経験できたこと、また実習指導保育者も同様の所見であったことが確認された。

今後、さらに特定児の観察日設定と記録に取り組む際、以下の点に配慮が必要であると思われる。第一に、実習日誌の記入欄の工夫である。現在J短期大学の書式には「子どもの活動」「保育者の援助・配慮」「環境」の3項目を設置しているが、特定児の観察・記録にあたっては、そこに実習生自身の「気づき」欄があったほうが具体的記録に取りやすいのではと思われた。また、「子どもの活動」欄の記録では、特定児とクラス全体の双方に視点を置くことで、その子どもの姿がより明確化されるのではないだろうか。その後の省察のことを考慮すると、どちらも記載されているほうが判りやすい。第二に、事前指導の徹底である。特に初めての実習の場合は学生自身が実習日誌の記録に慣れておらず、事前指導では現在主流の日案の形式を習得することに多くの時間が割かれている。これからは計画的に時間を確保し、個々の子どもの様子を記録する方法やその視点を養う必要がある。第三に、「特定児の観察日設定と記録」の実践機会の増加である。本実習もさることながら、事前指導の一環として協力園で観察とその記録を行うことで、より実践的な観察法を身に付ける事ができる。そして第四に、事後指導との連携である。実際に実習で経験してきたその記録をもとに具体的な事例を取り扱いながら子どもの様子や保育者の対応を振り返ることで、学生は一つのエピソードとしてしっかりと印象付けながらその学びを頭に刻む事ができると推察される。そのためにも、個人記録を基にした事後指導を充実させることが今後の課題と言えよう。

従来、実習日誌は実習生にとって重要な学習方法の一つだと認識されている。しかし、その内容は再三述べてきたように日案のような記述が求められる事が多い。それを改善するために、例えば、毎日繰り返される内容についてはデイリープログラムとして独立させて外に抜き出し、日々の記録においては特に気がついた事項を中心に記録する方法が考えられる。それにより個々の子どもの具体的な記録の充実と実習日誌の記載にかかる時間の短縮が図れるものと期待されるのではないだろうか。

多くの子どもがいる中「特定児だけを観察する」ということに抵抗を感じる場合もあるだろう。また、特定児というと「障がいがある子」といった印象を受けることも少なくない。しかしここで提案するのは、あくまで観察対象となる特定児の活動を限定的に追って記録することであり、それを子ども理解を深める一つのきっかけとして捉えることである。なぜなら観察と記録をとおして、実習生は子どもの様子や保育者の対応により具体的に触れ、

そこで得た学びを積み重ねていくことができるからである。そして、その観察視点を磨くことで子どもを理解し把握する力が育ち、やがてはクラス全体を見つつも個々の子どもを配慮するといった保育者に必要な技術の習得につなげていくことができるからである。そのためにも、いずれは特定児だけでなく全ての子どもの各エピソードが書けるような取り組みに発展させていくことの検討も必要であろう。

今回取り上げた内容は、実習日誌の形式や内容の規格化が地域や全国で進められることがある場合には是非考慮していただきたいものである。

### 【引用文献】

- 1) 文部科学省 「幼稚園教育要領解説－平成20年10月」 フレーベル館 2008
- 2) 阿部尚美・村井尚子、2008、「実習における個人観察の意義の検討」『大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要』第7巻、111-120
- 3) 小山祥子、2007、「幼児理解と保育者の援助理解を深める保育記録に関する研究（Ⅱ）－エピソード記録型実習日誌の効用と課題－」『北陸学院短期大学紀要』第39巻、45-58

### 【参考文献】

- ・ 畠山倫子 「幼稚園・保育所・施設実習」 三晃書房 1986
- ・ 斉藤謙 「保育所実習」 川島書房 1987
- ・ 「保育実習ガイドブック」 小学館 1989
- ・ 角尾和子 「幼稚園教育実習必携」 川島書房 1993
- ・ 米山岳廣 「保育実習の探究」 文化書房博文社 1994
- ・ 阿部明子 「教育・保育実習総論」 萌文書林 1998
- ・ 「保育実習まるごとBOOK」 小学館 2000
- ・ 保育実習研究会 「保育実習Q&Aハンディブック」 世界文化社 2000
- ・ 玉井美知子 「資格取得に対応した保育実習」 学事出版 2002
- ・ 阿部恵・鈴木みゆき 「教育・保育実習安心ガイド」 ひかりのくに 2002
- ・ 相馬和子・中田カヨ子 「実習日誌の書き方」 萌文書林 2004
- ・ 林幸範・石橋裕子 「保育園幼稚園の実習完全マニュアル」 成美堂出版 2007